

# こつざい 交差点

## 塚原石産興業 専務取締役 塚原 基成



当社の取り組む「働き方改革」、第一の目標は「労働生産性の向上」です。生産性の向上は全ての企業の至上命令であり、今に始まったことではありません。ただしここで言う「生産性」とは、いかに1人が時間当たりの生産量・出荷量を最大化できるか、さらに

その1時間をどれだけ付加価値の高い仕事に費やす事ができたか、それを評価軸として企業や従業員全員が意識的に業務を遂行していく、と言う事です。

## 生産性向上とその先

「労働生産性の向上」でなく、法定8時間の中で安全かつ効率的に目標を達成させる様々なインフラ・仕組みの整備が必要で、このインフラはハード面(生産設備や重機車輜、生産・販売管理システムなど)とソフト面(企業の追求する技術や人材教育など)に大別できますが、インフラの一例として、当社のような生産業務改革の中で特に注力している案件は、砕砂の生産技術です。

砂については「Sand Wall」と言われているように、世界中で争奪戦が繰り広げられています。国内においても天然資源の枯渇化が進んでおり、ますます砕砂の重要性が叫ばれています。ここで当社の生産技術を詳しくする事はできませんが、言うなれば資源の100%有効化を目的とした「捨てない砕砂づくり」で、長年の研究・試行錯誤を経て実用化し実績を

上げています。例えば時間あたり目標生産量が同じ100tでも、必要投入量が100t(歩留まり100%)か、140t(同約70%)か、ではその採掘体制・生産設備は大きく違ってきます。私たちの取り扱う鉱物・廃棄施設等への考え方は「有限」であると言います。

「有限」であると言います。資源を最大限有用化する意味で「地産地消」を達成するためには、私たち骨材メーカーと需要家の「資源」に対する相互理解・協力が不可欠であって、それが昨今言われている「共創」に創りだす」と言うことではないでしょうか。

求められる砕砂規格によつては、「資源を捨ててしまふ」事になりかねません。そのFM、微粒分量や実積率などの規格は、近年の研究によって従来の理論や考え方に限らずとも、配合設計を考慮する事で十分な性能を持ったコンクリートが製造できる事が証明されています。